



理性 情熱 友愛



三郷市立北中学校

挨拶一番 授業一番

花一番 清掃一番 歌声一番

第3学年 進路通信

平成29年2月14日

第53号

埼玉公立入試まで、あと16日。最後の追い込み、全力で頑張ろう！

先日、学年の先生方全員で、出願に必要な願書などの書類をすべて点検し、みんなが受検する埼玉県公立高校に学習の記録等一覧表を送付しました。この後は、願書に受検料である収入証紙を貼り、20日（月）・21日（火）に出願となります。いよいよ、第1志望校である公立高校への出願です。

学年の生徒の中には、朝の会前や休み時間などの時間を使って過去問を解いたり、友達どうして教え合ったり、分からないところを先生に質問をしたりしている人がいます。黙々と勉強に向かっているその姿から「最後の公立入試で、1点でも多く得点して、合格を勝ち取るぞ。」という強い決意が感じられます。追い込みの時期ですから、そういった空気が学年全体に広がっていくと、もっと良いですね。

さて、最後の公立入試の受検で、少しでも良い結果が得られるよう、埼玉県から出された学力検査についての情報をもう一度確認しておきましょう。

《学力検査問題の出題の基本方針》より

- 1 中学校における平素の学習を重んじ、中学校学習指導要領に基づいて出題する。
- 2 基礎的な知識及び技能をみる問題とともに、思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題の出題に配慮する。
- 3 各教科の目標に照らして、受検者の学力を十分に把握できるように、出題の内容及び出題数に配慮するとともに、記述による解答を求めるよう配慮する。

《学力検査の実施教科及び出題範囲》より

- 1 実施教科
国語、社会、数学、理科、英語の5教科とする。
- 2 出題範囲
中学校学習指導要領に基づいて出題する。なお、英語には、リスニングテストを含む。

→ つまり、「学校の授業で学習した内容から出題される」ということです。教科書・ノート・ワークなどをしっかりやっておくこと。単に暗記したり、計算したりするものだけでなく、考え方や表現力なども大事だということです。埼葛地区学力検査や過去問などを見ると分かります。

《学力検査採点に関する原則》より

この「採点に関する原則」は、受検者のいろいろな解答を予想して、採点する場合の基準を示したものである。採点は、次の1～5及び各教科の「採点の手引き」によるものとする。

- 1 問題のねらっていることが、理解されているとはっきり判断できるものは、正答とする。
- 2 部分点については、次のとおりとする。
 - (1) 各教科の「採点の手引き」の「採点上の注意」に「部分点を認める」と示した問題以外の問題についても、各学校の裁量で部分点を認めてもよい。
 - (2) 部分点は整数とし、0点を下回らない。

- 3 次のような場合は、各学校の裁量により正答と認めて差し支えない。なお、正答と認めず減点とする場合は、上記1の趣旨を踏まえ、過度な減点を行わない。
- (1) 「ひらがな」で書くべきところを、「かたかな」で書いた場合
 - (2) 「かたかな」で書くべきところを、「ひらがな」で書いた場合
 - (3) 漢字でかけるところを、「ひらがな」等で書いた場合
 - (4) 文字そのものの正確さを問う問題を除いて、文字についての若干の誤りや不正確な点のある場合
- 4 上記3以外で、指示に反した答え方をした解答や判読に苦しむような解答は、正答と認めない。
- 5 各教科の「採点の手引き」に示したものの以外の正答も予想されるので、十分留意する。

→ これまでの定期テストや埼玉地区学力検査の時にも、「1点でも多くの得点がとれるように」、「空欄を作らない」、「最後まであきらめない」などの話をしてきました。これは、入試でも同じです。

例えば「漢字で書きなさい。」と指示されていたとしても、もし漢字が分からなかったら「ひらがな」で書いておいた方が良いということ。もしかしたら点数がもらえるかもしれないのですから、最後まであきらめてはいけません。記号を選ぶ問題も、たとえ分からなくても、空欄には絶対しないように。運が味方してくれるかもしれないのですから。

逆に、4番目の「指示に反した答え方」や「判読に苦しむような解答」というのは、特に注意しなければいけません。問題をしっかり読み、何をどんなふうに答えれば良いのかをしっかりと考えて書かなければいけません。また、採点をする人は初めて君たちのテストを採点するわけですから、誰もが読める字で書かないといけません。ふだん、字が乱暴だったり、雑な人、くせ字のある人は、とくに気をつけて書くようにしましょう。

※入試問題の各教科の「採点の手引き」については、3月2日（木）の学力検査終了後、午後7時頃までに県のホームページで公開されます。

《H28学力検査結果について(年度別学力検査の全教科受検者数と各教科の平均)》より

年度	全教科受検者	国語	社会	数学	理科	英語	平均	総計
H28	46,820	57.9	63.7	51.1	39.2	57.4	53.9	269.4
H27	46,386	56.0	49.1	48.1	50.3	55.6	51.8	259.1
H26	46,702	64.0	49.5	45.0	46.1	45.0	49.9	249.6
H25	46,996	65.6	50.3	42.4	63.4	53.7	55.1	275.5
H24	45,942	59.7	49.0	36.5	48.7	44.1	47.6	237.9
H23前	45,275	52.7	57.5	40.4	45.2	47.4	48.6	243.2
H23後	11,780	54.1	/	44.3	/	46.0	48.1	144.4
H22前	49,270	56.2	49.5	42.4	51.5	52.9	50.5	252.5
H22後	14,219	59.9	/	47.6	/	54.8	54.1	162.3

埼玉県立総合教育センターのHPでは、過去問やサンプル問題とその正答・解説、出題の方針、過去の採点の手引きなどが公開されています。過去問を解いてみた時には、県の平均点を比べてみるのもよいと思います。例えば、昨年までの数学の場合、大問1が完璧に解ければ50点の配点（1問4～5点×12問程度）となっていて、これだけで平均点を超えることができました。新しい問題（サンプル）では、大問1の配点は66点、学校選択問題では42点となっていますから、これまで同様、大問1は大切です。絶対にできるようにしておかないといけません。また、この部分はどの受検生も力を入れて勉強してくるので、少しの間違いが大きく影響します。注意しましょう。